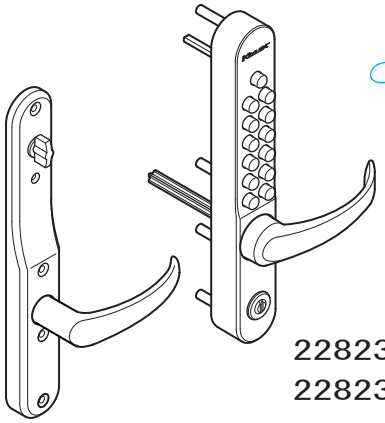
7275071

KEYLEX 800®

KL800
自動施錠

取扱説明書　（施主様向）

このたびは、当社製品のお買い上げ、ありがとうございます。本取扱説明書は、施主様、又はご入居者にお渡しください。
この説明書は必ずお読みの上、保管してください。



22823
22823M

防犯上、定期的に記憶番号の変更をされますようおすすめ致します。

〈記憶番号の記録〉
年　月　日
年　月　日
年　月　日
年　月　日
年　月　日
ただ今の記憶番号

キーレックス 800 シリーズ 保証書

お買い上げ日から１年間は、無料で修理を行なうことをお約束致します。
但し、誤用、取り扱いの不注意、災害、不当な修理や改造等に起因する
故障、又は 本証のお買い上げ日 及び 販売店名の欄に記入がない場合は、
保証期間内でも有料修理になります。

機 種 名：**キーレックス 800　22823，22823M**

お買い上げ日：　年　月　日　保証期間：お買い上げ日より１年間

販売店
住所・店名

品質ロット No.　　検印

NAGASAWA
www.nagasawa-mfg.co.jp

株式会社　長沢製作所

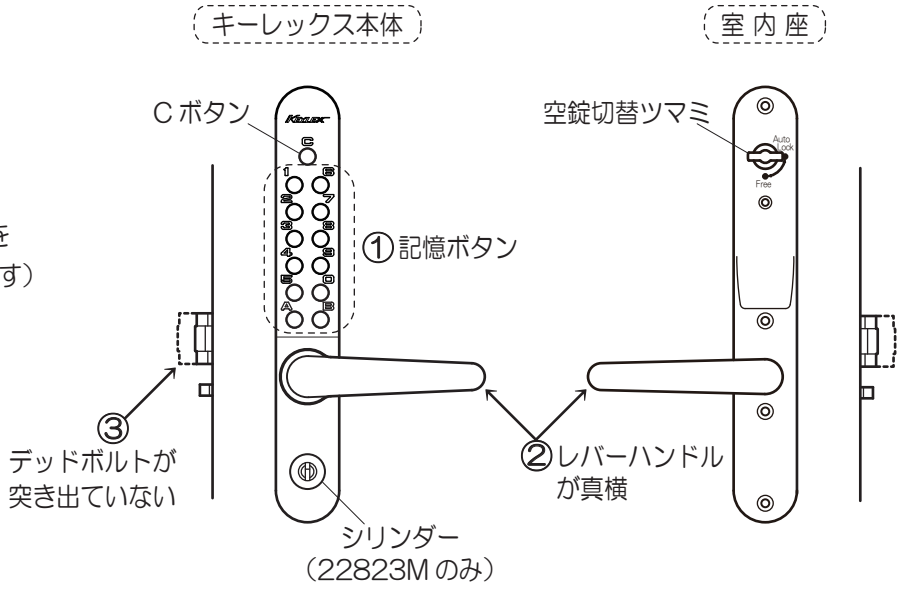
東京支店　TEL. 03-5383-1811（代）
FAX. 03-5967-3103
福岡出張所　TEL. 092-524-7031（代）
FAX. 092-524-7032
大阪支店　TEL. 06-6783-5091（代）
FAX. 06-6783-5092

基本操作

ご使用前に確認してください。

① 登録している記憶番号
② レバーハンドルが真横にある
③ 錠のデッドボルトが突き出ていない
（突き出ている場合は、レバーハンドルを操作して、デッドボルトを正常位置に戻す）

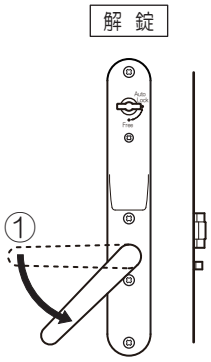
鍵付タイプの場合は、記憶ボタン操作を行わずにキー操作で開扉できます。



室内側

施 錠
① 扉を閉めると、自動で施錠されます（Auto Lock 時）

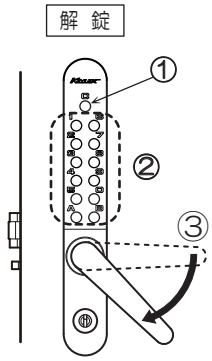
解 錠
① レバーハンドル操作で、解錠できます



室外側

施 錠
① 扉を閉めると、自動で施錠されます（Auto Lock 時）

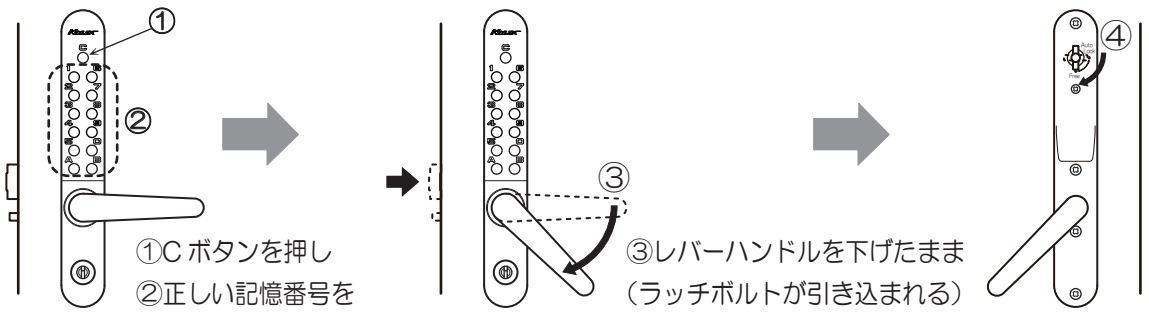
解 錠
① C ボタンを押します：誤操作の記憶番号が解除されます
② 正しい記憶ボタンを押します
③ レバーハンドル操作で、解錠できます



【鍵付タイプ】は
シリンダーにキーを入れて
回したまま扉を開けます
（レバーハンドルは
下がりません）

※ 本図は右吊元仕様です。
左吊元時は対称です。

空錠切替ツマミで、扉を閉めても鍵がかからない状態（空錠）にすることができます（Auto Lock から Free）。
（Free から Auto Lock へは、逆の手順で切り替えます）



①C ボタンを押し
②正しい記憶番号を
押します。

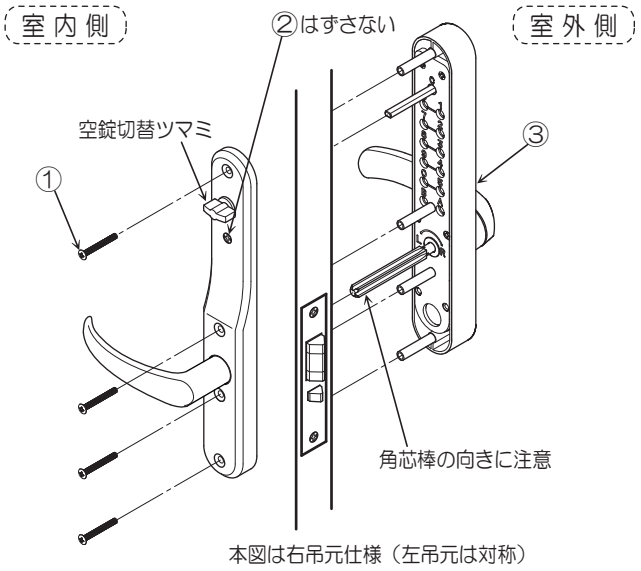
③レバーハンドルを下げたまま
（ラッチボルトが引き込まれる）

④室内側の空錠切替
ツマミを Free 側に
回します。

記憶番号の変更手順　扉は開けたままの状態でおこないます

【１】キーレックス本体を取り外します

取り外した部材は全て使います。紛失しないようにご注意ください。



本図は右吊元仕様（左吊元は対称）

Ⅰ：①本体固定ねじ４本をはずします。
　②室内座固定ねじは、はずさないでください。
　（扉に室内座を固定しています）
Ⅱ：③キーレックス本体を取りはずします。

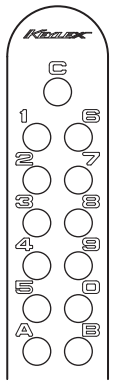
【２】記憶番号の設定変更をします

① 本体表側のＣボタンを押します。
⑤まで、記憶ボタンは押さないでください。

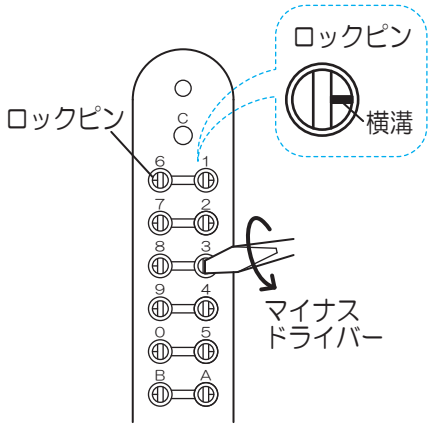
② 本体を裏向きにし、記憶されているロックピンを回転させ
（右側は左回転，左側は右回転でロックピンの横溝を外向きにする）
すべてをクリアします。

③ 新規に記憶する番号を必ず記録します。
本紙１ページに記入欄があります。

④ 新規記憶番号のロックピン横溝を中央部の横溝にあわせます。

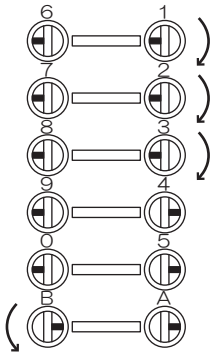


本体表側



本体裏側

例：Ｂ１２３



⑤ Ｃボタン＋新規記憶ボタンを押し、レバーハンドルが解錠方向に回ることを確認します。 基本操作 室外側欄を参照します。

【３】本体を取り付けます

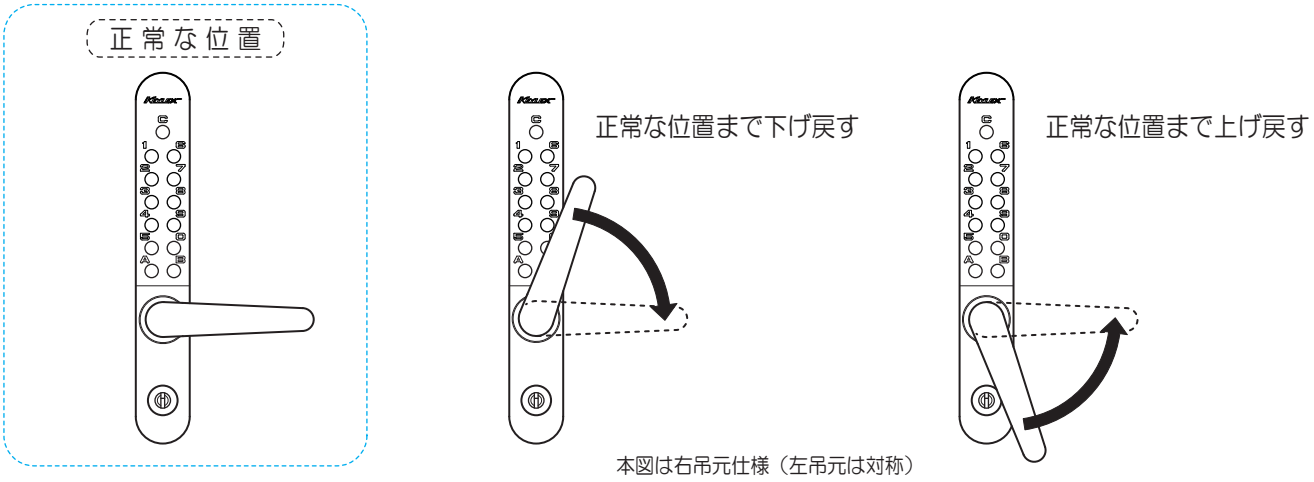
【１】と逆の順番で取り付けます
角芯棒，空錠切替ツマミの向きに注意して取り付けます（上図参照）。

取り付けたら、扉を閉めずに２ページの基本操作で作動確認をします。

レバーハンドルの位置が正常でない時

レバーハンドルの位置が、下図になった時は、正常な位置に戻します。

レバーハンドルに『こじ開け防止・安全装置機能』がついています。記憶ボタン操作をせず強引にレバーハンドル操作をすると内部機構保護のため安全装置が作動し、レバーハンドルが空転して、上（下）位置でとまります。故障ではありません。



本図は右吊元仕様（左吊元は対称）

記憶番号設定に関するご注意

- KL800 は 1 ～ 12 桁まで任意の記憶番号を設定できます。
- ボタンを押す順番は自由です。順番は指定できません。
  例）記憶番号　1·2·3　の場合
  1·2·3　と押しても　2·3·1　3·1·2　1·3·2　と押しても解錠できます。
- 1 つのボタンにつき設定は 1 回だけです。　（同じボタンを 2 度押しする設定はできません）
  例）1·1·2·3　や　1·2·2·3　の設定はできません。

注意　危険防止の為に以下をお読みください

■ 取付ねじのゆるみ
- 各部取付ねじのゆるみは、防犯及び落下防止の為定期的に増し締めしてください。

■ 受座の飛び出し
- 受座の飛び出しが大きい場合、体を傷つけたり、衣服を引っ掛けるおそれがありますので、取付業者に依頼して適正な受座に取り替えてください。

■ 他の用途への使用
- レバーハンドルにぶらさがったり、足場にしたり、物を掛けたりしないでください。危険です。

◆ 操作上の注意（故障の原因となります）
- 製品の分解、改造はしないでください。
- デッドボルトを突出させた状態で扉を閉めないでください。
- ボタンを押しながら、レバーハンドルの操作をしないでください。

◆ 永くご使用頂くために
- 錠ケースへの潤滑材使用はさけてください。
- 表面の手入れは柔らかな布でから拭きしてください。
  汚れのひどい場合は、中性洗剤を使用してください。

ドアの吊り下がり、扉の開閉速度、丁番の具合など異常がありましたら専門の業者にご相談ください。